

Title	小金井良精氏著「人類學研究」日本石器時代人骨の研究概要の一節
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1925
Jtitle	史学 Vol.4, No.4 (1925. 12) ,p.86(554)- 86(554)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19251200-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

予は從來日本石器時代遺跡に二種あると云ふ説を採つてゐるものである。それはアイノ式遺跡と彌生式遺跡とである。而してこれに各々形體的人類學上の意義が關聯してゐると思ふ。即ち甲は時代古くして日本原住民たるアイノ人種の直系祖先、又は既にこの時代に於て他の遅れて來住せる人種の血を幾分か混入せるアイノ種族のもの、乙はこの遅れて亞細亞大陸から來住せる日本民族の基本成分たるモンゴリヤ人種のものであらうと考へてゐる。

抑も日本民族は如何なる民族であるか。予はこの問題を人類學上からして明かにしたい希望を持つてゐるが、併しかゝる廣汎なる問題はなかなか一個人の能くすべきことでないからして、先づその中の根本的問題の一たる日本民族の出自(本原)といふことを特に研究問題としてゐる次第である。

日本民族は勿論單純なる人種でなくして、種々な人種又は民族から構成せられたところの混合民族であるが、然もその基本成分は東北亞細亞の黃色人種たることは大抵異論なからうと思ふ。其外恐らくは東南亞細亞の民族にも關係があらう。又殊にマレイ種族即ちインドネサヤ住民の分子が少からず混じてゐるといふことは廣く唱へられてゐる。なほ又南洋諸島種族の或る分子も混じてゐるかもしれない。併しながら日本民族構成に就て慥かに密接な關係を持つてゐるものはアイノ人種であると信ずる。(下略) 小金井良精氏著「人類學研究」日本石器時代人骨の研究概要の一節